

1. 活動報告（事務局 記）

—3月30日（月）会計監査が行われました。また合わせて総会の資料について会長・田村副会長・原谷・岡村・原田マでチェックし、修正箇所を確認しました。

—4月4日（土）平成27年度の総会が行われました。25名の参加でした。

会長挨拶後 会長が議長となって

- 1) 26年度の活動報告はつくる会と観察隊に分け報告があり承認されました。
- 2) 26年度つくる会会計報告が承認され観察隊は市への提出資料を確認していただきました（宇部市への事業としての会計は承認されていました）
- 3) 役員改選と事務局の体制変更等規約改定が承認され下記決定しました。

顧問・・・今井和男（昇格）

会長・・・原田賢治（昇格）

副会長・・・田村勝芳（継続）・・・落合直己（新任）

事務局長・・・関根雅彦（新任）

事務局員（地域渉外）・・・原田満洲夫（分任？）

事務局員（活動実務）・・・前田歳朗（新任）

事務局員（広報HP）・・・原谷一誠（新任）

監査役・・・林 弘之（再任）

これによる事務局の連絡先（メールアドレス含む）は新事務局長指定の場所となります。

以下新会長・議長による議事

- 4) 活動計画について イ) 稲作 ロ) 会報 ハ) エコアップ ニ) 維持管理
それぞれの報告と依頼がありました。

- 5) 27年度傷害保険はすでに加入済みの報告と観察隊とつくる会活動
で振り分けて精算されます。

- 6) その他

イ、昭和山遊ロード二俣瀬の看板が宇部市環境政策課の計らいで修復されることになりました。

ロ、簡易トイレは河崎会員によって調査して頂けることになりました。

—4月13日（月）第1回事務局会議を山大工学部で行いました。また親子自然観察隊への対応についても協議しました。参加者は、関根・原田マ・前田・原谷・落合・寺本・中本・岡村でした。

—4月18日（土）親子自然観察隊の第1回目は「決隊式及び食べられる野草」でした。
ふれあいセンターで、会長挨拶と新事務局長挨拶をして、危ない生き物などの説明をし、子どもに自己紹介してもらいました。次にビオトープへ行って、北村講師から食べられる野草についてサンプルで説明がありました。親子で採ってきた野草をテンプラにし、草もちを搗

いて、食べました。参加者は、親子6家族（登録は11家族、親7名・子8名）と山大生7名（マレーシア留学生4名）と会員16名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

—

◎行 事

—5月3日（日）（草刈・溝あげ）エコアップ・修復作業

—5月16日（土）親子自然観察隊（野鳥観察）外部講師招聘

3. 来訪者の声

今月はありません。

4. 会員の声【親子自然観察隊に思う】（原田 満洲夫 記）

「親子自然観察隊」は、いろいろ論議有って、「つくる会」と協働活動として今後も継続することになった。早速初回の決隊式に本来の観察隊のメンバーが半分以下の出席であった。ビオトープが「自然環境教育の場」のコンセプトのもとに、一生懸命世話をし盛り上げようとした会員の皆様には本当に残念であろう。次回の活動日「野鳥観察」に、再び初参加の隊員にプレゼンテーションを行わなければならない。

今までに大きな人身事故はなかった事は幸いであった。今後も事故を起こさないためにも主催者は初回の決隊式や毎回の活動日に行うプレゼンテーションで活動内容を説明し安全指示を隊員に伝えなければならない。

これらを欠席したり、当日遅れてきたりした隊員については必ず同じプレゼンをする事が主催者の義務であることを忘れてはならない。最後に我々の活動が空回りしないことを望む

5. 親子自然観察隊（決隊式及び食べられる野草）

今年の観察隊に登録していただいている親子は11家族で、そのうち新規は3家族。うち2家族はリピーターのご家族のご親戚である。

ビオトープを拠点として、自然観察・里山の暮らしを親子の皆さんと体験する1年が始まるかと思うと、新たな気持ちで臨まねばと準備に取り組んだ。

4月のテーマは、「食べられる野草」。毎年リーダーを引き受けてくださる北村さんは、子どもたちに実物を見せられるように、春の七草を鉢植えにして育てておられる。それ以外に、ビオトープの中で見つけられる野草のサンプルを採取して、当日に備えておられる。17日の午前中、北村さんのサンプル集めに、前田さんと私も同行させていただき、同じような草の見分け方（葉っぱや花の付き方の微妙な違い）を、実物を見せていただきながら教えていただいた。とても勉強になった。

また、原田会長とタケノコを探しに出かけた。当日の天ぷらの材料としてタケノコは大変喜ばれるので、何本かは準備しておかねば…ということで、いざ、原田会長の竹やぶに。じ

っと観察しながら歩くと、あちこちに頭を出しているタケノコを発見。でもタケノコ掘りは思いのほか難しい。うまく掘らないと、タケノコに傷がつく。タケノコの周りの土をほぐしてからバサッとするのだが、周りの土が固い。木の根っこや固い岩盤みたいなものに阻まれて思うように掘れない。ほとんどを原田会長と前田さんに掘ってもらい、私は1本だけ挑戦。5本もあれば充分だったのだが、見つけると見過ごすことが出来なくなり、全部で10本くらいは収穫したと思う。これらのタケノコはすべて原田会長が毎年無償で提供してくださる。ありがたい。

決隊式は、18日、二俣瀬ふれあいセンターで行った。今年は管隊長が病気療養中のため、事務局の原谷さんに隊長代理をしていただいた。

現地では、松本さん、河本さんを中心としたベテラン女性を中心に天ぷらを揚げていただき、事務局の原田さんには昨年ビオトープで収穫したもち米を準備していただき、餅つきの講習をしていただいた。みなでワイワイしながら手作りの草餅をつくり、おいしくいただいた。つくる会のメンバーは、みなさん自主的に自分の役割をこなされていて、スムーズに事が進んでとても有難かった。

山大工学部の留学生サークルの皆さんも参加し、子どもから若者、年配者まで、みんなが自然に触れ合い、楽しむ時間を持つことが出来たのは素晴らしかったと思う。

管隊長がお元気になれるまで、つくる会の皆さんの協力のもと、親子自然観察隊の運営をすすめていけたらと思っている。（中本 亜矢子 記）



北村講師の説明



タラノメを採る



草餅を搗く



野草の天ぷらを食べる

親子の感想

★月本直秀

野草探しがおもしろかったので、ビオトープを続けたいと思います。エンドウの種類が3つもあったので、びっくりしました。また、5月の鳥の観察を楽しみにしています。

★下川拓実

身近に生えている草が食べられるのだとよくわかりました。椎茸がおいしかったです。

★下川航平

山菜を取るのが楽しかった。タケノコとノビルがおいしかったです。

★下川和代（下川さんのお母さん）

カラスノエンドウ、スズメノエンドウの違いが三年目でやっとわかりました。

★川口颯太

せりの天ぷらがおいしかったです。おわって、釣ざおを貸してもらって遊んで楽しかったです。

★野田怜

筍堀りと山に入れなかったのが残念でした。天ぷらおいしかったです。よもぎの入った餅もおいしかったです。

★野田寿恵（野田さんのお母さん）

自然の中で子供達は走り回って、顔がイキイキしておりました。ビオトープへ連れてこれ、又今年度も参加させて頂けて良かったです。普段学校で習った英語で留学生と子供達は挨拶、会話していました。自然な雰囲気です。英会話をして頂きました。年齢層も幅広く集まり自然な雰囲気が良かったです。日本タンポポを食べたのは初めて。これだけ苦かった。天ぷら、餅、すべて美味しくついてたくさん食べてしまいました。ありがとうございました。

山大工学部学生の感想

★イーシン

山菜採りは楽しかったです。自然に囲まれてすごくきれいな場所でした。山菜の説明も詳しくてよかったです。しかし、配った資料の中には山菜の名前しか書いていなくて、説明を聞いた後で名前だけを読むとどれがどれだかわからなくなりました。もし山菜の写真も名前の隣においてあればとても助かると思います。てんぷらも、もち作りも面白くて美味しかったです。

★モス

年上の日本人といろいろなことを話して本当に良かった、私はここに1か月もまだ立たないけどそのこと体験することができ、それはいいと思います。もっと楽しいこと経験したい、日本で

★岡本

まず、留学生たちが楽しんでくれたようで良かったです。春の山菜の天ぷらを食べながら小学生が留学生に対して英語で話そうとする場面がありました。人と人や自然が触れ合った貴重な時間だったと感じました。

6. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 (管 哲郎 記)

(28) キイロサナエ *Asiagomphus pryeri*

サナエトンボ科 Gomphidae <アジアサナエ属> *Asiagomphus Asahina*

日本特産種、山口県でもよくみられる“ヤマサナエ”のそっくりサンですが、ヤマサナエより一回り小さなトンボです。本州、四国、九州に生息しますが、東北地方では産地が局部的、山口県でも多くは見られません。ヤマサナエと見間違えて見逃しているかもしれません。5月下旬～8月まで見られますが、県内では5月～7月に多くみられるようです。

平地や丘陵地、低山地の緩やかな流れに生息します。浅く緩やかな泥の中が好きなので、農薬の届かない山際の浅い水田の畔などで多くのヤゴが生息していたりします。

須賀河内川の川底は泥土質よりも砂質の場所が多いようなので、本種よりヤマサナエが好みます。上流部に行き泥土質の川底を探せば本種が見つかるかもしれませんが、上流部は土地が荒れ河川が雑草で覆われていますので搜索は困難ですし、解放水面を好みますのでいなかかもしれません。筆者も10年近く上流部を見ているのですが、探せませんでした。



♂



♀



キイロサナエ♂の羽化

7. 会よりの連絡事項

1) 4月4日の総会での議論を経て、新事務局が発足いたしました。

事務局長・・関根雅彦

事務局員（地域渉外）・・原田満洲夫

事務局員（活動実務）・・前田歳朗

事務局員（広報HP）・・原谷一誠

これに伴い、事務局の連絡先を以下のように変更いたします。

事務局の所在地（郵便物送付先）

〒755-8611 宇部市常盤台 2-16-1

山口大学工学部 社会建設工学科 関根研究室気付

里山ビオトープ二俣瀬をつくる会事務局

事務局メールアドレス：biojim-bb@mlex.cc.yamaguchi-u.ac.jp

2) 次回活動日は、今年度最初の作業日です。作業内容は、草刈と溝あげが主体となります。

ビオトープの生命線といえる水路の溝あげは、非常に重要です。また本格的な草木の繁殖期となり、草刈りも必要です。ゴールドデンウィーク突入しますが、フィールドの維持にご協力ください。

また時間に余裕があれば、エコアップについての学習として、外来種駆除の説明を行いたいと思っています。

3) 親子自然観察隊の隊員は、ご希望あれば途中からでも入隊可能です。次回（5月16日（土）9時～）の野鳥観察からでも問題ありませんのでご紹介ください。

4) 新事務局長の関根です。事務局はあくまでサポート係、雑用係。会員の皆様の活動あつてのつくる会です。できるだけ多くの方が参加しやすい運営を心掛けていきますので、活動への参加はもちろんのこと、皆様の積極的なご意見・ご提案を期待いたします！

8. 編集後記

4月から平成27年度の活動が開始され、総会にて役員も交代になり、事務局は一人体制から四人体制になって感じた事は、今までよく事務局の仕事を一人でされてきたことに感謝・感謝の思いです。四人になって心配なことは、あらゆる情報が共有できるかであるが、これについては新事務局長が今いろいろと試行錯誤されており、当分は迷惑をかけることもあるかもしれませんが、ご容赦願いたい。維持活動日にいろいろとご意見を頂きたいし、急ぐ場合にはメール連絡網に載せて欲しい。今年度については、どうか暖かい目でのんびり見つめて欲しいと願います。

（ 原谷 一誠 記 ）